

# 古書のたのしみ（令和六年七月）

土屋 博

一「頭書訓讀 源氏百人一首」黒澤翁満大人著

（東京書林合刻、天保十二年（一八四一年）辛丑年正月）

古書價格一萬圓也。

源氏物語の作中人物百二十三名について、作中和歌一首宛を選び、肖像畫とともに掲げたるものなり。印刷の美しさに心奪はれ、直ちに購入せり。

黒澤翁満は一七九五年桑名生れ、松平家に仕へ、藩務のかたはら賀茂眞淵の學風を獨學にて學ぶ。大阪堂島の者屋敷責任者ともなり、一八五九年大阪にて歿。

二「源氏百人一首 全」

（嘉永四年（一八五二年）頃の刊）

古書價格二千圓也。

上段に源氏物語作中の和歌（帚木より夢浮橋まで）、下段に小倉百人一首を配す。

三「源氏物語湖月抄」（第首編より第七編まで）北村季吟著

（積善館、大正二年三十版）

古書價格千五百圓也。初版は明治二十四年。講談社學術文庫版より字大きく、読み易し。



#### 四「源氏物語和歌集」安元溢編

(平助筆復古堂、平成元年二刷、一四五頁)

古書價格八百圓也。初版は昭和六十三年。源氏物語に登場する七百九十五首を眺むることを得。携帶に便利。

#### 五「源氏物語」清水好子監修、つぼいこう畫

(新人物往來社、一九八九年刊、定價千五百圓、三〇六頁)

外國人向け英語譯本と同時に作成せられたる大人向けの漫畫本なり。

#### 六「豪華源氏繪の世界 源氏物語」

(學研、一九九九年新訂版、定價三九五〇圓＋税、三〇二頁)

古書價格八百圓也。源氏繪を集大成したるは極めて貴重。

#### 七「歌で讀む源氏物語」(一) から(四) まで全四冊 又江啓惠著

(武者野書院、一九九七年より二〇〇一年にかけて順次刊行)

源氏物語の作中和歌七九五首すべての解説書として便利。

#### 八「繪本 源氏物語」

(日本古典文學會、二〇〇五年刊、定價二千圓＋税、三二〇頁)

承應版をベースに、一帖につき數枚の繪を掲げる。

#### 九「墨場必携 源氏物語 紫式部がつづる美しい日本」筒井ゆみ子編

(天來書院、二〇〇五年刊、定價千二百圓＋税、一一一頁)

大野晋の推薦文に「選り抜かれた詩文四百篇」とあり、四季ごとに紫式部の名文を味はふことを得。

十「繪本 源氏物語 石山版」

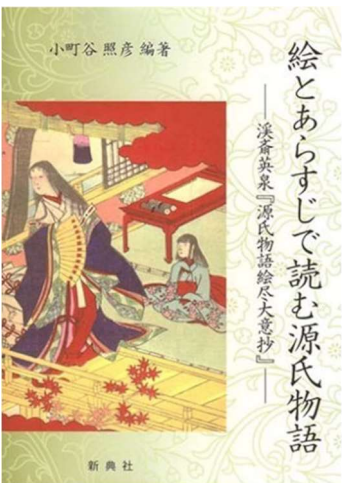
(大本山石山寺、平成十九年刊)

装幀極めて美しき、巻物風の稀少本として多くの方に推奨したし。一帖ごとにあらすじと一繪を掲載す。五十四帖の概要を短時間にて理解するに最良の書

十一「繪とあらすじで読む源氏物語」小町谷照彦編著

(新典社、二〇〇七年刊、定價四八三〇圓、五一頁)

「源氏物語繪畫大意抄」の影印復刻本。一帖につき一歌を繪入りにて紹介す。また、「承應版繪入源氏物語」、「女大學寶箱」などの影印も併せ復刻す。江戸時代の楽しみを存分に追體驗出来る。



十二「あらすじで楽しむ源氏物語」小町谷照彦著

(新典社、二〇一〇年刊、定價千六百圓＋税)

「女訓百人一首教鑑」(萬延元年刊)の挿繪すべてを含む。

十三「源氏繪鑑帖」傳土佐光則筆

(宇治市源氏物語ミュージアム、二〇一三年第二版)

初版は二〇〇一年。

大判、一帖につき一繪。大和繪のカラー印刷の美しさは絶品なり。

十四「かるたで学ぶ源氏物語」監修編集清水婦久子

(帝塚山大學出版會、二〇一九年)

十五「源氏物語の和歌」高野晴代著

(笠間書院、二〇一一年刊、定價千二百圓＋税、一二八頁)

十六「百首で讀む源氏物語」木村朗子著

(平凡社新書、二〇二三年刊、定價千圓＋税、三〇三頁)

(令和六年八月十三日受附)